

令和元年6月28日現在

機関番号：37402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04242

研究課題名(和文) 10代で出産した母子世帯および寡婦世帯への福祉的支援に関する日米比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of US and JAPAN for Welfare Support System for a Single Mother Who Gave Birth in Her Teens

研究代表者

出川 聖尚子 (Degawa, Risako)

熊本学園大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：90329045

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：10代出産母子世帯は、妊娠・出産時からすでに経済的な課題を抱えており、実家からの援助を受けて生活していた。彼女たちは、今の暮らしに満足しているが、自立できていないし、自立の見通しが立っていない。彼女たちが頼りにしている家族に変化が起きると、彼女たちの生活や子育ては危機的な状況に陥ると考えられる。10代出産母子世帯に対して、妊娠期から衣食住をはじめ生活支援、将来自立するための教育的支援、職業支援など総合的に支援が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「10代出産」と「母子世帯」という2つの要因を合わせ持つ「10代出産母子世帯」について、日米の現状および福祉的支援の状況を明らかにした。10代で出産した母子世帯および10代で出産した寡婦世帯に対して個別インタビュー調査(日本・アメリカ)、グループインタビュー調査(アメリカ)、アンケート調査(日本)をおこなった。10代で出産した母子世帯の支援者に対してインタビュー調査を行った(日本・アメリカ)。この研究により10代出産母子世帯の課題が明らかとなり、支援についての提案ができた。

研究成果の概要(英文)：Single Mothers Who Gave Birth in Her Teens are still having economic problems from pregnancy and childbirth and are helped from their families. Half of them live in comfort now, but they haven't become independent in their daily life and having no hope for the future. If a problem occurs in their families, they may lead to crises in their life and childcare. Then I think to need while supporting, such as life support (food, clothing and housing, and so on), education support and career support to promote independence from pregnancy.

研究分野：児童福祉学

キーワード：10代出産 母子世帯

## 1. 研究開始当初の背景

わが国における10代の出産は2012年で年間12,770件、出生数全体に占める割合の1.23%であった。婚姻年齢の上昇、出産年齢の上昇という社会状況にあっても、その数は過去30年一定数を保っている。若年妊娠女性の出産は、わが国の出生数から考えると少数であり、医学的な課題は少なくなってきた。しかし、急増する児童虐待における、子どもの死亡事例において、そのリスク要因として若年妊娠(10代妊娠)が挙げられ、若年妊娠女性の妊娠出産、子育ては深刻な課題を抱え、決して放置されていいものではない。また、近年では、日本のひとり親家庭の子どもの2人に一人が貧困状態であると報告されている。子どもの貧困は社会的な課題と認識され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」(2013年)が成立し、「子どもの貧困対策に関する大綱」(2014年)(以下、「大綱」)が出されている。「大綱」では、ひとり親世帯の親への支援の就労支援、子どもへの支援の学業の支援が掲げられていた。このような子どもや子育てをめぐる困難な環境に対して、児童福祉分野、母子保健分野、教育分野においても支援が国内でも始まっているが、課題に対して対処療法的に支援が行われている状況である。

## 2. 研究の目的

本研究では、「10代出産」と「母子世帯」という2つの要因を合わせ持つ「10代で出産した母子世帯」と「10代で出産した寡婦世帯」について、日米の現状および福祉的支援の状況を明らかにし、10代で出産したシングルマザーへの支援に寄与することを目的としている。

## 3. 研究の方法

(1) 10代で出産した母子世帯の母および10代で出産した寡婦世帯に対して妊娠から出産に至るまでの状況、現在の生活・子育て、子どもの頃の生活について、個別インタビュー調査(日本11人/アメリカ10人)・グループインタビュー調査(アメリカ6名)をおこなった。(日本・アメリカ)

(2) 10代で出産した母子世帯に対して、子どもの頃の状況、出産時の状況、現在の生活・子育てについて、心配ごと、経済的なこと、頼れる存在等について9市町村においてアンケート調査を実施した。(日本)

(3) 10代で出産したシングルマザーの支援者に対して10代出産母子世帯の生活・子育て、支援の内容、10代出産母子世帯の抱える課題についてインタビュー調査を行った。(日本6か所・アメリカ13か所)

## 4. 研究成果

### (1) 10代出産母子世帯・寡婦世帯の状況(日本)

① 現在の生活において「ゆっくりのんびりできているか」と現在の生活の満足感に関してクロス分析すると、10代出産母子世帯はゆっくりできているし、満足していると回答した人が4割弱いた(図1)。一方、ゆっくりできていないし不満であると回答した人は2割強いることが分かった。10代出産母子世帯は20代以上出産母子世帯に比べて、ゆっくりできていないし不満であると回答している人が13%少なく、10代出産母子世帯が他の母子世帯に比べて生活に関して精神的に余裕がある状況がみられた。

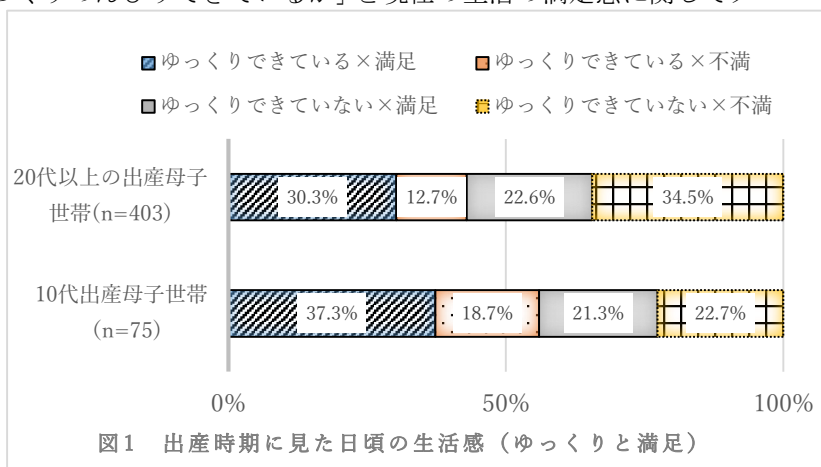
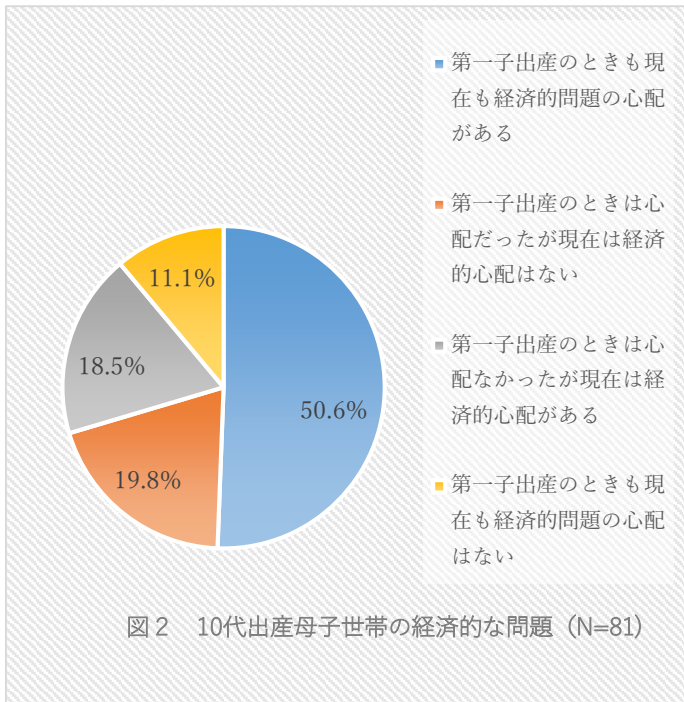


図1 出産時期に見た日頃の生活感(ゆっくりと満足)

たよりにいる人がいるかどうかについてみると、10代出産母子世帯は92.5%が頼りになる人がいると回答し、20代以上出産母子世帯(87.4%)より5.1%高かった。ただ、頼りになる人がいることが日頃「ゆっくりできているか」、現在の生活に「満足しているか」に影響しているのかとは必ずしも言えなかった。インタビュー調査においても、頼れる人がいるが、生活課題は解決している状況ではない姿が見られた。

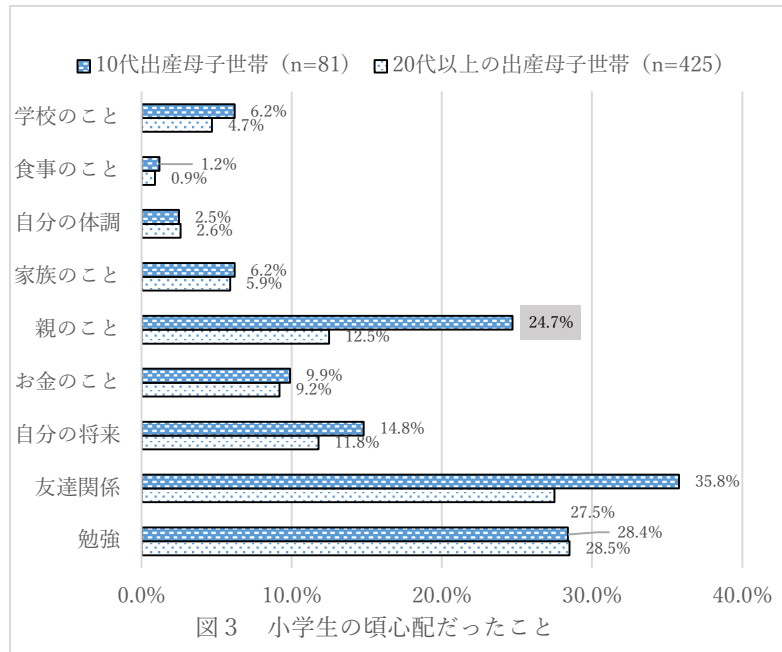
② 現在の10代出産母子世帯の心配ごとは、「経済的なこと」(69.1%)、「子どもの将来」(25.9%)、「自分の体調」(22.2%)となっている。10代出産母子世帯は、「経済的なこと」については20代以上出産母子世帯(69.2%)と同様の傾向にあるが、20代以上出産母子世帯と比べて、「子育て」においては10.1%少なく、「子どもの将来」においても9.4%少なかった。また、10代出産母子世帯が第一子出産のときの心配事としては、「経済的なこと」(70.4%)、「子育て」(45.7%)、「仕事」(23.5%)であった。20代以上出産母子世帯は、「経済的なこと」(53.6%)、「子育て」(47.1%)、「仕事」(21.4%)であった。20代以上出産母子世帯と比べると、第一子出



産の頃、10代出産母子世帯のほうが15%以上「経済的なこと」を心配している状況が見られた。また、第一子出産のときも現在も継続して経済的な心配ごとを抱えている人は半数にのぼった(図2)。母子世帯になったことで、経済的な課題を抱えるという状況ではなく、出産のときにすでに経済的な課題を抱えている状況であったことが分かった。インタビュー調査において、10代出産シングルマザーは、結婚していない、出産前から子の父との交流がない、出産後連絡がない、養育費はもらえないなど、子の父からの支援が受けられていない状況であった。また、10代出産シングルマザーはアルバイトなどによって収入が得ていた。また、寡婦世帯においても、いくつかのパート・アルバイトを変わりながら仕事を続けている状況であった。特に10代出産シングルマザーはシングルマザーと親子が暮らすだけの

収入が得られていなかった。誰かに頼らなくては生活や子育てできない状況にあり、10代出産シングルマザーの多くが、原家族からの物理的、精神的支援を受けていた。

③ アンケート調査で、10代出産母子世帯の母の小学生の頃の心配ごととして、約4分の一が「親のこと」を挙げている(図3)。20代以上の出産と比べても割合が高かった。10代出産母子世帯とそれ以外とで、「親のこと」を心配していたかについて関連性を見るために $\chi^2$ 検定を行ったところ、10代出産母子世帯は20代以上出産母子世帯より小学生の頃「親のこと」を心配していたと解釈することができた。



また、10代出産女性のうち小学生の頃「親のこと」を心配しているかどうかと、小学生の頃「お金のこと」を心配しているかどうかについて関連性を見るために $\chi^2$ 検定を行ったところ、親のことを心配しているほうが「お金のこと」を心配していたと解釈することができた。

インタビュー調査では、子どもの頃親が多忙で不在であることが多かったこと、放任されていたこと、経済的な問題があったことなどが語られた。原家族は、10代出産シングルマザーにとって支えとなっているものの、子どもの頃からの親子関係、実家の経済的な状況などから、10代出産シングルマザーにとって安心できる居心地がいい場所とは必ずしも言えない状況も見られた。

④ アンケート調査では、10代出産母子世帯は親になってあきらめたことが「ある」(23.5%)と約4分の一が回答し、母子世帯全体(27.1%)よりも低い結果となった。あきらめたことの内容は「なりたい職業」、「仕事」、「学校」であった。インタビュー調査では、10代出産シングルマザーは出産を機にあきらめたことがあると回答したものはなく、積極的に10代で出産するということを選択していた。子どもを育てていることに対しては、満足し、充実感を持っている姿が見られ、シングルマザー自身のエンパワーメントされる機会となっていた。一方、10代で出産しシングルマザーであることが子どもに嫌な思いをさせる、させているのではないかと案じている状況も見られた。

## (2) 10代出産シングルマザーの状況(アメリカ)

インタビュー調査では、妊娠・出産したことによって高校を中退した人、高校に通いながら妊娠・出産・子育てをした人、一旦高校を中断したもののその後子育てをしながら高校に通った人、現在通っている人などがいた。高校卒業後も、アルバイトとして働く人、専門職につくために進学した人、起業する人もいた。多様な選択肢が準備されているものの、自分の希望していた進路にはすすめていないと回答する人が多くいた。女性が学業や社会経験、職業経験などのキャリアを積む時期に出産を経験することによって教育や就労において不利な立場におかれるということがわかった。

出産当時、実家の援助とフードバンクなど福祉的な援助を受けながら子育てをしている人がほとんどであった。しかし、出産後数年してからは公の福祉的な援助をもらっていないと大半が回答していた。ただ、現在の生活において、経済的なこと、子どもとの関わりなど子育てのことなど問題であると回答している人が多くいた。

今回の聞き取りの中で、子どもとの時間やかかわりなどについて不安や不足感をもつものはいなかった。また、シングルマザーであることの子どもへの罪悪感に関する発言はみられず、「家庭の形」と「子どもの育ち」は関連させていなかった。

## (3) 10代出産シングルマザーの支援の状況(日本・アメリカ)

日本において、10代出産母子世帯に対して一般世帯と同様にその支援の対象となる状況であれば、子育て支援、ひとり親への支援、貧困世帯としての支援、特定妊婦としての母子保健分野での支援が受けられる。支援者のインタビューでは、10代出産のシングルマザーの抱えている問題は、様々な課題が混在していて部分的に対処しても解決できる状況ではないことが多くあるため、実際の支援を行うには、ソーシャルワーク的な関わりと多様な分野の連携が不可欠であるということであった。

アメリカにおいて、シングルマザーであることではなく、10代出産に対して、社会の課題や支援の対象という認識が見られた。若年出産をした女性に対して貧困世帯を対象としたフードバンク等公的な福祉的な支援を中心に、教育・就労・住居・子育ての支援が公民間の支援にみられた。特に、高校の卒業するための支援は多数見られた。妊娠した時に転入し妊娠・出産・育児の支援を受けられる高校、子育て中に母親が預けやすい保育園の取り組み、10代ママたちの高校卒業の意欲を支援するサポートなど充実していた。高校卒業することが、将来の生活に影響するという考えが浸透していると考えられる。また、公的な支援を受けるにあたっては教育及び就労が条件になることが影響しているということも背景にある。支援者のインタビューでは、10代出産のシングルマザーへの支援には、3か月や半年など短い期間における明確な目標を持つことを重視していた。

## (4) 日米10代出産シングルマザーの状況の比較をとおして

以上のことから、10代出産母子世帯には、出産時から衣食住をはじめとした生活への支援、妊娠中でも教育を継続できたり、出産後も自分の希望するキャリアを積んでいくための機会を設けたりする将来の自立していくための教育や職業支援、子どもの頃から抱えている課題が引き続いている状況が見られることから原家族への関係を理解した上での支援などが必要と考えられる。そのうえ、10代出産母子世帯に生まれた子ども自身に対する支援にも目を向けていく必要がある。

また、日本において、シングルマザーであったり10代で出産したりすることへの「子どもへの申し訳なさ」をもつ風潮があることや、母親役割が優先されるという考え方が、10代出産シングルマザーが自分の目標を持つことを阻んでいるようにも考えられる。出産していない10代女性と同じように10代出産シングルマザーも自分の人生の目標を持つことや目標を持てるように支援する必要があると考える。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 2 件)

① 出川聖尚子、10代で出産した母子世帯に関する一考察 ―沖縄県でのひとり親世帯への調査から―、社会福祉研究所報、査読有、47号、2019、pp41-64

<http://www3.kumagaku.ac.jp/research/sw/files/2019/04/fe14d37d48754322e1f77f49e83131d7.pdf>

② 出川聖尚子、10代出産家庭への支援に関する一考察、社会福祉研究所報、査読有、45号、2017、pp23-40

<http://www3.kumagaku.ac.jp/research/sw/files/2017/04/dc29dc40bdfc5bba47e22d95151ae46f.pdf>

[学会発表] (計 3 件)

① 出川聖尚子、若年出産したシングルマザーに関する一考察 その3、日本保育学会、2019

② 出川聖尚子、若年出産したシングルマザーに関する一考察 その2、日本保育学会、2018

③ 出川聖尚子、若年出産したシングルマザーに関する一考察、日本保育学会、2017

6. 研究組織

(1) 研究分担者 なし